

# ビリギャル 小林さやかさんに聞く

— 言葉の力で人は強くも優しくもなれる —

## ビリギャル 小林さやかさん

### ■プロフィール

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』（坪田信貴・著）の主人公。1988年3月生まれ、名古屋市出身。中学、高校で学年ビリを経験し、高2の夏に小学4年レベルの学力しかなかった。当時の全国模試の偏差値は30弱。塾講師、坪田信貴氏との出会いを機に、日本最難関レベルの私大、慶應義塾大学の現役合格を目指すことになる。結果、1年で偏差値を40上げて、複数の難関大学のほか、慶應義塾大学に現役で合格を果たした。現在は、ウェディングプランナーとして活躍し、2014年に結婚。



坪田信貴  
学年ビリのギャルが  
1年で偏差値を40上げて  
慶應大学に現役合格した話

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』  
坪田信貴 著  
KADOKAWA/アスキー・メディアワークス

## 人生の目標は偏差値より 自分のワクワク感を優先

高校2年の夏に入塾した最初の面談で、慶應義塾大学（以下、慶大）への志望動機について、“知的なイケメンがたくさんいそうだから”とサラリと言い放った小林さん。小林さんにとっての大学進学の意味は、“偏差値の高い大学に入る”ことではなく、“自分がワクワクできる場所に行く”こと。だが、当時、偏差値28の小林さんにとって、偏差値71の慶大合格への道は想像を絶する戦いだった。それでも、1日15時間の猛勉強を1年半続け、見事合格。なぜ、それほどまでにがむしゃらに貫き通せたのか。そこには、小林さんの人生を一変させた、人生の師と仰ぐ坪田塾・坪田信貴氏との出会いがあった。

坪田先生との最初の面談では、たわいもない話を2時間喋り続けたんですよ。元カレ、友だち、家族の話。そんな話を2時間も聞いた直後に、「東大って興味ある？」って聞かれました。「東大なんか興味ねえ。だって、イケメンいなそうじゃん！」と即答したら、「じゃあ、慶應はどう？」って。当時、慶大といえば嵐の櫻井翔くんのイメージ。「慶應だったらいいよ」って答えました。心理学を専攻されていた坪田先生ならではの、面談というよりも人間分析だったと思います。この子は、何に対してワクワクするのか、どういう分

野に興味があるのか、どういう人に憧れているのか。出会って最初の2時間で見極められました。この子にとって慶應大学ならワクワクする世界に映るはずだと。

「東大って興味ある？」と聞かれば、たいていの高校生は、「東大なんて無理です。〇〇大学に行ければ十分です」と答える。ところが、小林さんは、「あんなとこ、ツマンなそうだから行きたくなえ」と、自分の学力はまるで顧みず一刀両断に退けた。それがかえって、“自己肯定感（自分を大切な存在、価値ある存在と認識していること）をしっかりとった子”という印象を与えた。この子は伸びる、坪田氏は手応えを感じたのだ。

坪田先生の面談で答えた通り、私の目標（ワクワクすること）は、知的なイケメンがゴロゴロいる世界に行くこと。ならば、知的なイケメンってどこにいる？ 名古屋だったらどこにいる？ 別に名古屋じゃなくてもいいか、東京の方が選択肢が多いかも。そういえば、嵐の櫻井翔くんは慶大だった、慶大ってどんな大学なの？ 慶應ボーイって言葉があるくらいだからイケメンが一杯いそう♪ 慶大に行くなら、残り1年半でやるべきことは？ 自問自答してたどり着いたのが、1日15時間の勉強でした。私にはキラキラな世界（慶大）に行く手段として、勉強が必要だった。

でも、みんながみんなそうではありません。人がワクワクするポイントは違います。昆虫好きなら虫の研究に没頭する、バドミントンの選手を目指すならバドミントン優先の生活にする、ずっとテレビを見ていたいなら見続けて、いつかテレビを作る側の人になる。ですから、一律に勉強しなさいというのは無理があるのです。学生のみなさんには、偏差値ありきの進路選びではなく、ワクワクすることを軸にした人生の目標設定をしてほしい。どんなに立派な目標を掲げても、自分がワクワクしなければ無意味ですから。



## 言葉の力で

### 人は強くも優しくもなれる

学校講演に呼ばれることも多い小林さん。小林さんが高校生に話す内容は、小林さんのリアル体験談。テーマは、「やってみなきゃわかんないっしょ！ ～ビリギャル流不可能を可能に変える5つのコツ」。

5つのコツとは、①根拠のない自信を持つ ②自分がワクワクする目標を設定する ③目標に対して具体的な計画を立てる ④憎しみをプラスの力に変える ⑤目標や夢を公言する。いずれも小林さんが体現してきたことだ。なかでも、「憎しみをプラスの力に変える」は坪田氏からの言葉であり、小林さんの強みとなった。

坪田先生は、ここぞ！という時に心に残る言葉をかけてくれます。塾で、「パパほんとムカつくんだけど!!なんて愚痴ってると、「さやかちゃんはラッキーだね。いつかお父さんに感謝しなきゃいけないよ」って言われたことがあります。「そんな日は絶対来ねえから！」って反論すると、「人間の感情で一番強いのは憎しみだ」と教えてくれました。憎しみや腹立ちをパワーに変えた人だけが真の力を出せる。だから、お父さんに強い憎しみを抱いてる君が、その憎しみをパワーに変えられたら必ず合格できる。お父さんを見返す気持ちで勉強しなさいと。父には、「お前を塾に通わせるのなんて、お金をどぶに捨てるのと一緒だ」と言われてましたから、「絶対、父に謝らせてやる！」

って発奮しましたね。その日からメチャメチャ勉強した記憶があります。

でも、今、冷静に考えれば、父の方が普通ですよ（笑い）。学年ビリで毎日おへそ出して遊んでる。しかも、サンデー、マンデー、水曜日は何？「Hi！Mike.（ハイ！マイク）」を「ヒ！ミケ」なんて読んでる。そんな子が慶大の入試問題なんて解けるわけがない。誰でもそう思いますよ。でも、当時は、「なんで、やる前からそんなこと言われなきゃいけないんだ!!」と思うと、悔しくて悔しくて、絶対父を見返してやる！と思って必死で勉強しました。

小林さんが真摯に勉強に打ち込む姿に、一番変わったのは父親だった。「信じてやらなくて悪かった。さやか、本気で言ってたんだ」と。その後、少しずつ小林さんを応援するようになり、そんな父親の態度に、人って変わるんだ、と実感する。一生懸命努力する人に、周りの人はこんなにも優しくなれることを肌で感じた。いつのまにか、相手の心も溶かしていたのだ。もう一つ心に留めた言葉がある。坪田氏が塾の講師にかけていた“心の中で抱きしめる感覚で指導する”というフレーズ。

心理学では、ピグマリオン効果と言いますが、簡単に言えば、相手に期待を寄せれば確実に成果が出るということ。だからと言って、ただポジティブな言葉をかけ続ければいいわけではありません。

母親が子供に必死の形相で、「私はあなたのことを信じてるからね」、「あなたなら大丈夫。次のテストも



『ダメ親と呼ばれても学年ビリの3人の子を信じてどん底家族を再生させた母の話』  
ああちゃん、さやか(ビリギャル)著  
KADOKAWA/アスキー・メディアワークス

100点取れるわ」というような言葉を浴びせ続ければ、それはもう脅しです。まずは、子どもをしっかり見つめる眼差しや、子どもの言葉に耳を傾ける姿勢が大事。同時に、心の中で抱きしめる感覚を持てば、それに伴う言葉が自然に出てきます。

小林さんは、母親による最強のピグマリオン効果を受けていた。口癖は“さやかが幸せになればそれでいい”。スランプで3日間勉強ができなかった時も、「そんなに辛いなら、やめちゃえばいいよ」とひとと言。多額の塾代を捻出しているのに、なぜ、すんなりやめていいと言えるのか。母親の凄さを改めて思い知らされる。文字通り、無償も無償の愛。母親の愛情や坪田先生の言葉が自己肯定感を育てていた。

後編に続く



## 小林さやかさん 最新情報

「元・ビリギャル」がつくる、ママを楽しむための学校。1日限定開校。

◆URL <https://readyfor.jp/projects/birigal>

◆公開日 2017年8月21日(月)

◆終了日 2017年10月10日(火)

◆目標金額 300万円

◆プロジェクトタイトル

「元・ビリギャル」がつくる、ママを楽しむための学校「渋谷でママ大学」1日限定開校。

◆推しのリターン

- ・当日入場券やセミナー参加確約券
- ・当日夜開催の打ち上げ参加券
- ・ビリギャルの夫が経営する居酒屋@三軒茶屋でクラウドファンディング打ち上げパーティー参加券
- ・坪田塾特別授業をビリギャルと一緒に受講できる券

などなど、体験型リターン多数ご用意！

応援よろしくをお願いします！！